

対馬にずっと 対馬でもっと

対馬市誕生から20年



写真①



写真②



写真③



写真④



写真⑤



写真⑥



写真⑦



写真⑧



写真⑨

平成16年3月1日、対馬市は誕生しました。皆さんは20年前、どこで何をしていたか？節目となる今回は、対馬市20年の歩みと共に、市の誕生に向け対馬の人たちがどのように取り組んでいったのかを振り返ってみましょう。

市制施行20周年を記念したロゴ、キャッチフレーズを制作。 20年の節目に市公式マスコットが誕生しました！



ロゴデザイン
阿比留 里香さん

20年前は、生まれ育った対馬を離れ、福岡に住んでいました。福岡から対馬に帰った時に改めて感じたのは、豊かな自然とやさしい人たち。20の文字の中には、私がその時に感じた思いをたくさん詰めました。この素晴らしい環境で、対馬の子どもたちがいつまでも育ってほしいと強く感じています。このロゴを見て、対馬の良さを再認識してもらえたらうれしいです。

キャッチフレーズ 「対馬にずっと 対馬でもっと」

私の友人が、やむなく対馬を離れた昔と違い、今は日本中どこでも様々な仕事ができる時代です。対馬で生まれ育った人々が、ずっとこの町とともに暮らせるような、魅力ある「国境の島」対馬を、応援したいと思います。



キャッチフレーズ
川端 祥彦さん

マスコットキャラクター制作 桐谷 衣以奈さん

見た目から対馬らしさを感じられるデザインにこだわるなか、対馬の魅力はたくさんあるため、それらを一つにすることに苦労しました。

今後「とらっち」が、多くの人に対馬を知ってもらうきっかけになると嬉しいです。



市公式マスコット
「とらっち」

対馬市20年の あゆみ

対馬市の誕生以来、様々なできごとを「広報つしま」でも市民の皆さんにお伝えしてきました。



平成16年

- 対馬市誕生…写真①
- 対馬海峡漁り火の湯(足湯)開設

平成17年

- 対馬市民球団 対馬まさかりドリームス設立
- 峰温泉ほたるの湯開設
- 陸上競技800mで日本一の本堀亮太さん(豊玉中3年)へ初の市民表彰

平成18年

- 半井桃水館開館
- 秋篠宮殿下が対馬市を訪問
- 対馬市交流センター開設
- 岡山県瀬戸内市と姉妹市縁組を締結

平成19年

- 23年ぶりに下島でツシマヤマネコの生息を確認
- いさり火まつりが復活
- 対馬の聖人 陶山訥庵生誕350年祭開催
- 岐阜県中津川市と姉妹都市縁組を締結

平成20年

- 対馬空港の愛称 対馬やまねこ空港に決定
- 国指定名勝 旧金石城庭園開園

平成21年

- 国道382号どう坂バイパス全線開通
- にほんの里100選に厳原町豆酸が選出

平成22年

- 漂着ごみ(発泡スチロール)油化装置完成

平成23年

- JR九州高速船ビートル(比田勝⇄釜山)就航
- 未来高速コピー(厳原⇄釜山)就航
- 滋賀県長浜市と友好のまち縁組を締結
- 朝鮮通信使ゆかりのまち全国交流対馬大会開催

平成24年

- 赤米諮問大使に相川七瀬さんが就任
- つしまソムリエに王理恵さんが就任
- 対馬とんちゃん部隊がB-1グランプリでシルバークラウン獲得…写真②

平成25年

- 厳原町内山でツシマヤマネコ野生復帰プロジェクト始動(環境省対馬自然保護官事務所厳原事務室開設)
- 豆酸の赤米を宮中に献納…写真③
- 福岡市によりあい処つしま開設
- 対馬市初の名誉市民に郷土史家の永留久恵さん

平成26年

- 対馬市誕生から10年、記念式典開催…写真④
- 対馬国境花火大会開催
- 岡山県総社市・鹿児島県南種子町と赤米連携協定を締結

平成27年

- 観光情報館ふれあい処つしま開設
- 「国境の島 壱岐・対馬・五島〜古代からの架け橋〜」が日本遺産に認定
- ソフトボール男子TOP日本代表に糸瀬勇助選手(上県町仁田出身)が初選出
- 長崎県対馬病院開院

- 沖縄県竹富町と「ヤマネコ愛!ランド」共同宣言を締結

平成28年

- 対馬初のプロ棋士誕生 佐々木大地四段(美津島町難知出身)
- 市内最長の佐須坂トンネル(1,867m)開通
- 商工会青年部が熊本地震の被災地へ支援物資を搬送
- 沖縄県竹富町と友好都市協定を締結

平成29年

- 有人国境離島法施行により船・飛行機の運賃引き下げなど開始
- 峰総合運動公園陸上競技場 全天候型にリニューアル
- 佐賀県基山町とふるさと応援寄付金に関する連携協定を締結
- 対馬市子ども議会が初開催
- 国内で38年ぶりとなる野生のカワウソを発見
- 朝鮮通信使に関する記録がユネスコ記憶遺産に登録…写真⑤
- 国境サイクリングIN対馬初開催
- 小中学校の児童・生徒にタブレット端末を配布

平成30年

- 日本初の国内旅客混乗便が運航開始
- ソフトボール男子TOP日本代表に黒岩誠玄選手(美津島町難知出身)が初選出、糸瀬勇助選手は3回目の選出
- 雨森芳洲生誕350周年記念イベント開催
- 訪れてみたい日本のアニメ聖地88(2019年版)に認定

令和元年(平成31年)

- 初の対馬市教育委員会表彰に渡辺久美子さん(健全育成功労)・永留堯吉さん(文化功労)
- 岡山県総社市と災害時相互応援協定を締結
- 大雨特別警報が初めて対馬で発表
- 「第12回全国離島交流中学生野球大会」(通称:離島甲子園)開催…写真⑥

令和2年

- 新型コロナ流行で緊急事態宣言が出される
- SDGs未来都市に選定
- 「対馬グローバル大学」が開校

令和3年

- 比田勝中学校、上対馬高等学校の生徒が描いたイラストが比田勝地区の街灯フラッグに
- 東京2020オリンピック聖火リレーが行われる…写真⑦
- 対馬朝鮮通信使歴史館開館

令和4年

- 対馬博物館開館…写真⑧
- 朝鮮通信使ゆかりのまち全国交流会对馬大会開催
- 「対馬の盆踊」ユネスコ無形文化遺産登録

令和5年

- 比田勝と釜山を結ぶ国際航路が3年ぶりに再開
- 朝鮮通信使行列再現が4年ぶりに開催…写真⑨
- 対馬図書館の来場者が100万人突破

令和6年

- 対馬市誕生から20年

6つの町が一つに。「対馬市」誕生へ

国は、人口減少や少子高齢化など社会の変化を受け、住民に寄り添ったより効率的なサービスを提供できるように平成7年に法律を改正し、全国の市町村を合併することを推進しました。対馬では、その流れを受け、厳原・美津島・豊玉・峰・上県・上対馬の各町が合併に向けた協議を平成11年にスタートさせます。

当時、住民を対象としたアンケートでは、70%以上が合併が必要と感じており、法律に基づいた協議会を設置することになりました。



長崎県内では最も早く協議会が設置された

長崎県内の先陣を切って協議が始まる

合併に向け本格的な協議を行うため「対馬6町合併協議会」を設置し、各町の町長や町議会議員、有識者、住民の代表らが合併に向けた協議を平成12年8月にスタートさせました。どのような形の合併が良いか、住民の意見はいくつかありましたが、合併をすることで得ることができるメリットが最も高い6町合併を目的に、協議がスタートしました。協議会は、平成16年2月まで26回、4年近く行われました。

話し合いで見えてきた新しい街のかたち

合併に向けた協議は、それまでの町を廃止し新しい市を作るという項目から、合併の期日、水道料金などをどのように統一するのかなど43項目にわたって協議が行われました。「対馬市」という名称は、市名の公募において最も応募数が多かった名称です。

協議の中で多くの時間を割いたのが「市役所の配置」。広い対馬において、本庁や各事務局をどこに置くのかは、市民サービスに影響を与えることから慎重に協議され、本庁や議会、教育委員会などの場所を分散して設置する方法で決着しました。



公募によって決まった「対馬市」

協議会事務局として、対馬の歴史を目撃

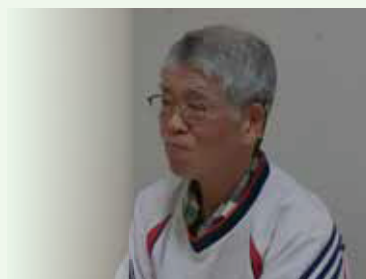
困難を極めた合併協議会の業務は、責任も重く、厳しく苦しい毎日の連続でした。ただ、自分の公務員人生を振り返ると困難に挑戦するやりがいにも満ちた最高に充実した時間だったと感じています。対馬の中にある町であっても、人口から歴史、職員の仕事など違いはたくさんあり、事務事業項目は1000を越えました。それらを調整して、住民の皆さんが不自由なく各町の町民から、対馬市市民となる手助けをするのが事務局の仕事です。対馬は、自然や文化、産業など多様な魅力がある島です。

その魅力を資源としてとらえ島の外に発信していくためには、合併して一つの自治体となるのが最善の方法ではないかという思いを持ちながら、協議会での仕事に取り組んできました。

協議会では、委員の皆さん、とりわけ、各町から選出された一般の委員の皆さんに助けていただきました。これまで生まれ育った町という形をなくす協議をするわけですから、それぞれの苦しい立場もあったかと思います。しかし、住民の目線を大切にされ、協議していただいたお陰で、対馬は新たなスタートを切ることができたと、当時を振り返って強く感じています。



協定書にサインする各町の町長



旧上県町から事務局へ派遣されていた三宅一郎さん

対馬市スタートに向け皆が一つに

対馬市誕生を目前に控えた平成16年2月22日、豊玉町で「対馬もんんにぎわい祭り」が行われ、マグロの解体ショーや郷土芸能の発表、花火の打ち上げなどが行われ、老若男女問わず、たくさんの島民が集まりました。

これは、対馬6町の商工会に所属していた若手経営者たちが、この1年ほど前に「対馬市のスタートに合わせ、島民が一つになれる何かを行いたい」と動き出したことが発端となり計画がスタート。各町ごとにアイデアを持ち寄る中で、農協や漁協、青年団などの若手を巻き込んだ、大規模なイベントとなりました。

当時の対馬市商工会青年部部長 熊本 滋之さん

それまで、会議かソフトボール大会くらいしか、6町の会員が集まる機会がなかった私たちでしたが、このイベントを作り上げることで一体感が生まれ、その後は各地のイベントにお互い手伝いに行くようになるなど、この祭りを機に、全島の人と人とのつながりが生まれました。



6町が一つになることを鮮明に印象付けた



老若男女問わず多くの島民が参加



20年前のあの日…

平成11年の協議開始から、約5年の歳月を経て誕生した対馬市。3月1日には、記念式典や桜の植樹といった記念行事が行われたほか、対馬市と記載されたナンバープレートの交付を受けようと市役所を訪れる市民がいるなど、対馬市にとって特別な1日となりました。

私たちも20歳です！

今年の二十歳を祝う会に出席した庄司さん姉妹

庄司桜音さん^{かのん}と悠音さん^{ゆのん}の双子の姉妹は、対馬市誕生と同じ平成16年3月1日に生まれ、対馬市とともに20歳を迎えました。

姉：庄司桜音さん（上、左）

対馬市と同じ日に生まれ縁を感じます。これからもっと活性化して、良い街になってほしいです！

妹：庄司悠音さん（下、右）

同じ日に産まれる偶然にうれしく思っています。もっと若者が増える街であってほしいです！



今年の二十歳を祝う会に出席した庄司さん姉妹

たくさんの人たちが想いを寄せて生まれた対馬市は20周年を迎えました。次の10年、20年に向けてもっとこの島が輝くことを目指し、対馬市は、市民の皆さんと共に歩き続けます。